

主な質問事項(重複している質問については、省略しております。)				回答
10/27(火)	質問			
10:00				
8名				
①	新しいごみ回収をする上で、優先順位が最も高いのは何か?	①		適切な規模の焼却場を建設するために、ごみの量を減らしていき、適切な規模の焼却炉を建設することである。
②	焼却場を作るうえで、候補地となる具体的な案はあるのか?	②		利島村は、自然公園法の特別地域である一種・二種地域や、普通地域等から一部が成っており、建築物の規制に関する種々の許可基準を満たす必要がある。特別地域以外の場合、早期に建設できること。落雷や強風などによる停電の影響を受けずに、安定した電気・水道の供給が可能であること。ごみ回収車や建築作業車が通るため、道路の幅員が確保されていること。集落の場所から近くなるため、収集コストが抑制できること。港湾近くに設置することで、焼却灰の搬出コストが抑制できること。用地だけでなく、周囲の地権者の同意が必要であること。樺山の近くに設置する場合、樺油への影響といった風評被害が懸念されることが挙げられる。環境に対する規制は大変厳しく、現施設の建替えは非常に難しい。特別区域内に建設することは、環境アセス等、非常に時間がかかることから、廃車置き場周辺において計画整備を行い、現状の改善を図る予定。
③	利島村における規制区域外の範囲は?	③		学校よりも西側にあり、交流会館は普通地域に入っている。昔の集落があった所と認識していただいて構わない。
④	利島村における普通地域の範囲は?	④		下側は、製油センターと駐在の所のカーブがある都道をつないだ所で、炭焼き小屋は二種地域に入っている。西側は蛇洞沢が二種の境目になっている。汚泥再生処理センターは、蛇洞沢よりも集落内にある。浄水場においては、許可を取ってあったが、壊して上物を作るための許可に時間がかかり、支障がなかった。清掃センターについては、高さが13mを超えているので、許可が取れない現状になっている。
⑤	村として検討している適地については、どのように考えているのか?	⑤		施設については、廃車置き場周辺を計画的に整備してゆく予定。
⑥	今まで焼却場を建設する予定はなかったのか?	⑥		3~4年前の評価結果によれば、リサイクルセンターを島内に作るのと同時に、ごみ焼却場を島内に建設するというのが、コストを最も抑えられるという結果が出た。装置については、小型の焼却炉を検討している。そのためは、ごみを減量化することが必要。その上で、一番の問題となる生ごみを減らして500万円~1000万円の燃料費を減らしてゆくことを検討している。
⑦	いつから生ごみの収集を実施するのか?	⑦		村としては、減量化により、ごみ量やごみ質の変化を早期に把握できるので、焼却場の規模を決定していきたい。そのため、過剰なスベックにならないよう、ごみの分別については、早期に実施していきたい。
⑧	ごみは自分で始末することは、基本であるはずなのに、港がすごく汚い状態になっている。海岸のごみ清掃については環境面を考える上でも非常に重要なのではないか。	⑧		カケナ浜の波打ち際に浮遊物がたくさん散乱しているので、来年度、海の日を中心に村民の皆様呼び掛けて、海岸清掃の実施を検討していきたい。漁協とも連携して進めていきたい。
14:00				
6名				
①	PETボトルはビニール袋等に入れて、まとめて網に入れるということだが、袋ごと入れてよいのか。	①		袋から取り出して、専用のPETボトルを入れる網に入れていただきたい。
②	生ごみ処理槽の使用状況について、教えていただきたい。	②		定期的に使用いただいており、下の方は既に発酵している。ホースをつなぎ、処理槽を洗浄するようにしている。
③	生ごみは、天樽のようなものに入れて、ステーションに出す生ごみ用の容器から回収するのか。	③		ステーションにある容器から取り出して、天樽のようなものに入れて、容器は戻す予定。
④	回収車は、生ごみについてどのような処理をしてゆく予定なのか。	④		天樽に入れたものを、生ごみ処理槽に入れる予定。
⑤	不燃ごみは今までどおりなのか。	⑤		月1回、第4水曜日の予定である。
⑥	新しいごみ回収を実験的にやってみないと分からないとのことだが、実施後に永久に続く印象を持つ村民の方が多く、もし実施して元の方がよいということになれば、現状維持という選択肢はあるのか。	⑥		村としても、一つの実証実験と考えているので、この回収の方法が未来永劫続くとは限らないことは承知している。新しいごみ回収により、ごみ質やごみの量を把握して、適切な焼却炉の規模を検討していきたい。
⑦	村民の方に周知の徹底を図るためにはどうしたらよいのか。外部に対する協力や、ステーションボックスに貼ること等、住民との協力が必要なのではないか。	⑦		村内放送や広報等を通じて、周知を図ってゆく予定である。民宿についても、客ごとに周知徹底を図っていきたい。
18:00				
16名				
①	建設用地は今から探すのか、これから村有地で検討してゆくのか。	①		建設用地は、村有地を検討中。私有地では用地買収等を行うのに1年以上かかるため、不可能だと考えている。
②	生ごみ可燃かで迷ってしまった場合はどうするのか。	②		役場にお問い合わせいただいて、その都度判断させていただく。
③	プラスチックに関して、どこまでの汚れであればリサイクルとして出せるのか。	③		プラスチックの汚れについても、どこまで汚れなのかは判断が難しいが、キムチやラー油といった、汚れがついたものについては、洗い流して落とせばプラスチックとして出すことが可能。
④	缶ビールは洗ったほうがよいのか、ただ切るだけに止めるだけでよいのか。	④		洗ってほしい理由として、後からにおいが出たり、洗浄して再商品化するため、可能な限り洗浄してほしい。
⑤	黒の弁当箱のような箱については、プラスチックとして出せるのか。	⑤		プラスチックとして出すことは可能
⑥	納豆の白いものは、白色トレイになるのか。	⑥		白色トレイにはなるが、洗うのが難しいので、燃えるゴミとして出していただけでも構わない。
⑦	ピンのラベルについては、はがす必要はあるのか。	⑦		今まではがすようお願いしていたが、新しいごみ回収においては、はがす必要はない。ピンごとに島外搬出する予定
⑧	油の入ったピンは洗ってもなかなか落ちないが、危険ゴミになるのか。	⑧		水洗いして出していたら、ピンとして回収させていただく。

主な質問事項(前回の対話と合わせて、重複している質問については、省略しております。)

10/29(金)	質問		回答
10:00			
2名			
①	焼却施設を建設した時に、トレイやプラスチック容器の戸別回収をして、現状のように島外搬出するという認識でよいのか。	①	プラスチックの容器包装リサイクルに関しては、容器包装リサイクル協会のルートにのせて、島外搬出を行うことを検討している。 島外搬出の費用及び陸送料については、村の費用が発生しないので、容器包装リサイクル協会で費用分担してもらえる状態になっている。
②	今の所、ペットボトルや段ボールがほとんど売れるとは思わないが、今後これらを燃やすということは村にはないという方向でよいのか。	②	リサイクルできるものは、リサイクルに出すという方向で考えている。 容器包装については、業者回収を行っている。
③	汚泥処理センターで生ごみをきちんと分別して行う予定はあるのか。	③	汚泥処理センターの一日の処理量は4kgと聞き及んでいる。4kg以上生ごみを出せないこととなっているので、現在は保育園の生ごみしか入れることができない。 保育園の生ごみを入れると、運転に支障が出るということもあり、現実的に村の生ごみを全て入れるということ是不可能なものとなっている。
④	第4次計画案だと、来年度から着工予定になっているが、今から色々なことをしていくと、どれくらいの期間が必要なのか。	④	1.2tの規模であれば、半年で出来上がる予定。新潟県の粟島蒲村に実績があり、9月の議会で補正を行って、3月で完成した経緯がある。 本村でも、令和4年度に行って、半年で建設する予定。
⑤	混合ガソリンを一升瓶に入れて使っているが、ゆすいで持っていてもよいのか。	⑤	そのまま出していくことが可能。
⑥	ペットボトルについているリングはどうすればよいのか。	⑥	キャップとラベルだけ取っていただいて、ペットボトルのリングは残しても構わない。
⑦	分別について、細かくてわかりにくいので、もう少しわかりやすいものにした方がよいのでは?	⑦	今後作成を検討している。
14:00			
3名			
①	汚泥処理センターで生ごみをきちんと分別して行う予定はあるのか。	①	汚泥処理センターの一日の処理量は4kgと聞き及んでいる。4kg以上生ごみを出せないこととなっているので、現在は保育園の生ごみしか入れることができない。 保育園の生ごみを入れると、運転に支障が出るということもあり、現実的に村の生ごみを全て入れるということ是不可能なものとなっている。
②	第4次計画案だと、来年度から着工予定になっているが、今から色々なことをしていくと、どれくらいの期間が必要なのか。	②	1.2tの規模であれば、半年で出来上がる予定。新潟県の粟島蒲村に実績があり、9月の議会で補正を行って、3月で完成した経緯がある。 本村でも、令和4年度に行って、半年で建設する予定。
③	混合ガソリンを一升瓶に入れて使っているが、ゆすいで持っていてもよいのか。	③	そのまま出していくことが可能。
18:00			
16名			
①	可燃ごみから紙類を減らすと相当な量が減ると予想するが、他に可燃ごみにあたるものはある	①	可燃ごみから紙類を減らすと、相当な減量が見込まれるが、主に可燃ごみとして想定しているのは、紙おむつ等が挙げられる。
②	魚の骨は入れられないのか	②	マグロといった大きな骨は入れることができないが、普通に捌いた魚の骨であれば、入れていただいても構わない。 サザエ・めっかり・しったかの殻に関しては、燃えるゴミか海に戻していただきたい。
③	生ごみ処理槽が破損した場合はどうすればよいのか	③	容器が余っている分については、破損してしまった場合には再配布を検討している。
④	プラスチックに関しては、水で完全に切らないといけなのかな。	④	完全に汚れを落とすとは言わないが、なるべく汚れは落として水をきってほしい。 プラスチック容器包装は、プラスチック本体を資源ごみとするのではなく、本体の周りの容器包装に関してリサイクルするものである。
⑤	アルミ缶はつぶしてもいいのかな。	⑤	アルミ缶はつぶさなくても構わないが、可能な限りつぶしていただきたい。
⑥	ステーションの蝶番が壊れていることもあったのだが、補修はどうするのか。	⑥	役場にご連絡いただければ、対応する。村内清掃でステーションの清掃についても検討していきたい。